

石英ガラスの特殊性を活かして 事業を黒字に転換

課題

新たな石英製品の 再生分野に進出したい

半導体の製造過程で欠かすことのできない石英ガラス。その修理・製造を行っているのが、周南クォーツ株式会社だ。石英ガラスは、光をよく通す、熱に強いなどの性質を備え、市街地から離れ中山間地域に位置する鹿野地区は、きれいな水や空気に恵まれ、石英ガラスを扱うのに適した場所である。

同社のおもな取引先は半導体デバイスメーカー。大手企業と遜色ない製品づくりと中小企業ならではのフレキシブルな対応による受注生産が中心だったが、リーマンショック後の景気低迷により受注の伸びが鈍化している。

こうしたなか同社は新たな経営基盤の柱となる石英製品の再生分野への進出に着手するが、適正な設備を有していないため不良品が多く発生し、非効率だった。また、需要に対して供給が追いついておらず、専用の溶接炉の導入を計画するも資金が不足しているという課題があった。

支援

新たな分野への進出と 事業拡大を後押し

受注減を解決するため、景気の動向に左右されない新たな光源分野へ進出して体制を強化することが急務となった。そこで同社は、販売体制の強化と販路拡大で売上高の増加を目指すため、経営革新計画に挑戦。鹿野町商工会が計画策定を支援した。そして平成22年、経営革新計画の1回目の承認を受け、これにより、売上高の増加と利益率が向上した。

その後、さらなる事業拡大のため平成29年から、ものづくり補助金の採択に向けて商工会が再び支援を行った。まずは、現状をしっかり把握することからスタート。とくに石英製品を取り扱っている特殊性を活かすため、どのような企業で需要があるのか、おもに石英製品が何に使われているのかななどの把握に努めた。また、同社が予定している新製品開発のためのヒアリングも実施した。

そして、経営力向上計画と経営革新計画の策定を同時進行で支援し、平成30年1月に承認を得た。経営革新計画では、経営者とともに県でプレゼンテーションを行い、企業の概要、新製品であるボトムヒーターの再生について実際に製品を見せて説明をした。

経営力向上計画や経営革新計画の申請を通して今後の方向



石英ガラスの溶接作業

性が見えてきたので、計画を実行するためによろず支援も活用しながら、ものづくり補助金の申請支援も行った。

平成30年6月には、ものづくり補助金の採択を受け、加点項目の先端設備導入計画の認定に向けて支援に取りかかった。ものづくり補助金の採択によって新たな設備が導入され、大幅な受注に対応できることが見込めるようになった。

同社は創業後数年間は赤字が続いていたが、平成27年度から黒字転換し、以後黒字決算が続いている。平成29年度決算では、売上高が前年比で20%も上昇している。

支援の経過

期間	支援内容
H22年10月	経営革新計画の承認（1回目）
H26年10月	ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金の採択
H29年12月	経営革新計画の承認（2回目）
H30年1月	経営力向上計画の承認
6月	ものづくり補助金の採択
7月	先端設備導入計画の承認

会社概要

会社名：周南クォーツ株式会社
 住所：山口県周南市大字鹿野下1385-3
 電話番号：0834-68-3822
 URL：http://www.syunan-quartz.com/
 代表者名：取締役社長 益田進
 創業年：平成19年
 年間売上高：1億4000万円（平成29年）
 従業員数：8名
 商工会名・担当者名：鹿野町商工会・国重文治